


様式(細則 5-2)

平成30年10月29日

浜田市議会議長  
川神 裕司 様

議員名 佐々木 豊治 

## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成30年10月17日(水) ～ 10月18日(木)

2. 研修内容

- 1日目 「公共施設の老朽化・更新問題をこうして打開せよ」  
講師：日本PFI・PPP協会 業務部長 寺沢弘樹氏
- 2日目 「歳出予算審議のポイントと主要政策・行政評価の考え方」  
講師：関西学院大学教授 稲沢克祐氏

3. 研修先

大阪府吹田市広芝町  
図書館流通センター関西支社 研修室

4. 調査経費 45,220 円

経費内訳	セミナー受講料	10,000 円 (5000 円×2 講座)
	旅 費	35,220 円 (高速バス 新幹線 宿泊代)

5. 調査研究活動の概要

別 紙



1日目 10月 17日 13:30~16:30

「公共施設の老朽化・更新問題をこうして打開せよ」

講師 日本 PFI・PPP 協会 業務部長 寺沢弘樹氏

公共施設・インフラの老朽化・更新が、各自治体の経営問題となっています。今後の自治体経営に必要な費用の調達と良質な公共サービスの提供のため、民間を活用した PPP/PFI の手法が導入されつつあり、先進事例から学ぶものであります。

#### 講演の論点

- 1、 自治体の経営感覚
- 2、 二元代表制と PPP/PFI
- 3、 公共施設総合管理計画を読む
- 4、 公共施設等を取り巻く環境
- 5、 教科書型行政の限界と思考停止
- 6、 発想の転換
- 7、 PPP/PFI 事例
- 8、 自分事として考える
- 9、 決め方を決める
- 10、 生きる手段としての PPP/PFI
- 11、 ユルクトンガル

#### 講演の内容から

・公共施設等総合管理計画

・このままいくとそう遠くない時期に夕張市のように多くの自治体が資金ショートする。炭鉱から観光への政策が失敗した。単年度会計だけみてはだめ。

夕張市の課題は「人口減少、大量のハコモノ、マネジメント能力が無い、誰かが助けてくれる」など、全国の自治体がかかえる共通の課題。

・普通のまちで財政力指数 0.96 の健全だった富津市は「自分のまち

がつぶれる」と宣言。財調を増やすため事業を先送りした結果、財調の積み増しはできたが経営はマイナスに。単年度会計現金主義の矛盾。

- ・国も助けてはくれない。国の予算歳入の35%が公債で交付税も足りないため、「臨時財政対策債」という借金を地方に負わせている。返ってくる見込むはないため、それに気づく自治体も。

- ・公共施設老朽化において事故が場合、罪を問われるのは執行部。(ふじみ野市のプール事故の例)高槻市のブロック塀崩落問題、自分のこととして考えれば対応できていた問題。行政がいかにかげんだったか。

- ・事業採算性が欠落。箱作るのは簡単だが回すのが困難。

- ・財政が健全なら、老朽化の不具合などは解消されているはず。先送りは過去から今日まで発生させたつけ。今の人がかげりをつけるべき。

国は総合施設総合管理計画を作りなさいと。しかし国には作れていない計画。

- ・総務省型の総合管理計画では施設マネジメントは対応できない。

## 所感

問題提起がされた後、様々な取り組み事例の紹介があった。武雄市の図書館や岩手県紫波町の事例などは現地視察もした経緯があるが、民間の資金やノウハウの調達・連携は今後、ますます経営が困難となる自治体にどのように取り込めていけるのか大きな課題である。講師先生に浜田市での民間連携の可能性を質疑した。

ノウハウを提供してもらえる民間事業者をどのように探し、連携してもらえる手法など伺った。

2日目 10月 18日 13:30~16:00

「歳出予算審議のポイント 主要政策・行政評価の考え方」

講師 関西学院大学教授 稲沢克祐氏

自治体財政は歳入が先細る一方、公債費や扶助費、維持補修費等の増加により、今後さらに硬直化を進めていくことが見込まれる。よって、これまで以上にメリハリの財政運営、とりわけ予算審議の充実が求められる。予算をめぐるの着眼点などの展開を財源と行政評価の視点などから学んだものである。

#### 講演の論点

- 1、 予算審議の前提 地方自治体の環境変化
- 2、 予算の意義
- 3、 歳出予算審議のポイント
- 4、 行政評価と予算審議

#### 講演の内容から

- ・予算の減額修正権には触れていない。決算と予算を連動させる。予算審議の充実は決算審査の充実にかかっている。
- ・予算審議のポイントとしては、木をみて(現年度と新年度の歳出規模や伸び率の比較)枝ぶりをみて(目的別・性質別の比較)葉っぱをみる。(大きな計画からおさえ、事業内容を精査)
- ・新規施設の必要性の視点としては、建設費用だけではなく、今後30年程度の維持管理費用は今後の財政負担において課題とならないか、需要はどの程度あるのか、政策目標との関連性はあるのか、他の施設で代替できないか、など。
- ・人件費と物件費は自治体のランニングコスト。外部民間活用による委託料の削減。行政ではコスト計算が不十分。
- ・補助金については、補助事業による成果目標が明確にされているかが大事。運営費補助金のようになっている補助は、より一層、事業の

成果目標を明確に。

- ・予算にのせる案件はきちんと説明がつくものをのせている。
- ・補助金は建設費用には入っても維持管理費には入らない。
- ・議会は一枚岩でない。

### 所感

予算審議は決算審議との連動と充実にかかっており、これまでの答弁がどうなっているのか予算審議で確認すると、改めて認識した。また、新規建設については建設費用より建設後の維持管理費の審議が大切であるとお話しでした。

施設建設について、議会には予算の増額はできないが、減額修正は認められており、一つの手法として検討する場面も増えてくるように思う。